

環境報告

環境経営

東海理化グループでは「環境」を経営上の重要課題の一つと位置付け、モノづくりと環境保全の両立をめざしてグループ一丸となって環境活動を推進しています。国内・海外のグループ企業、サプライチェーンも環境活動の推進範囲ととらえ、世界規模で広がる環境問題に対応するための体制づくりを進めています。

環境スローガン	環境方針
人と車の調和をめざし、 企業活動に伴う環境負荷の 低減を図ります。	1 経営理念、社員行動指針に基づき、 環境への取組みを進めます。 2 法・地域や顧客との約束を守り、さらに自主目標を定め、環境汚染の未然防止を進めます。 3 環境委員会を設置し、継続的な環境改善活動を展開します。

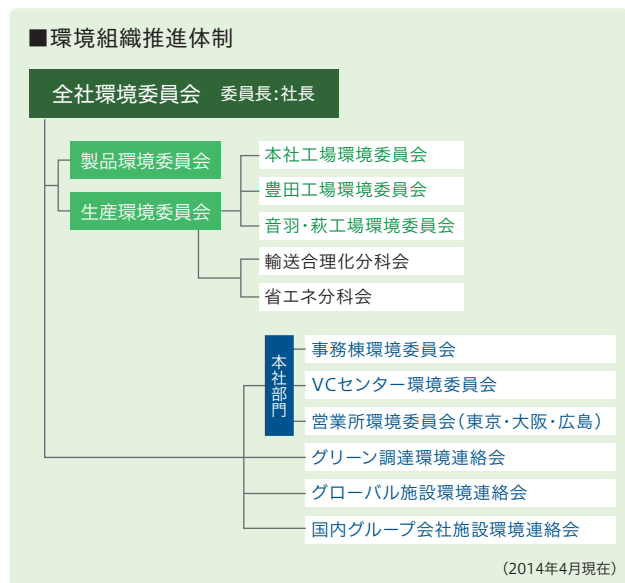


2013年度の活動報告

連結環境マネジメントの強化推進

東海理化グループは国内外の事業所において、その地域特性に合せた環境保全活動に取り組んでいます。

国内関係会社7社と海外関係会社24社のグループ各社全ての環境データを収集し、その環境データ(CO₂排出量、排出物量)を基に第5次環境取組みプランの目標達成に向け、グループ全体で活動を推進しています。



国内グループ施設環境連絡会

国内関係会社7社と環境監査および相互研鑽を目的に、連絡会を定期開催しています。2013年度は、法順守を重点に教育実施、自己診断、東海理化スタッフによる現地監査で活動強化を図りました。また不具合事例などの環境リスクを共有し、未然防止に取り組んでいます。



▲連絡会での現場点検

グローバル施設環境連絡会

毎年行われる海外事業体連絡会の中で2013年9月にグローバル施設環境連絡会を開催しました。活動成果と今後の進め方として、国内での不具合事例紹介、グローバル監査活動結果報告などを行い、情報共有とともに意見交換を行いました。また各社での問題点などを全員で協議し、活動の方向性の統一をしました。

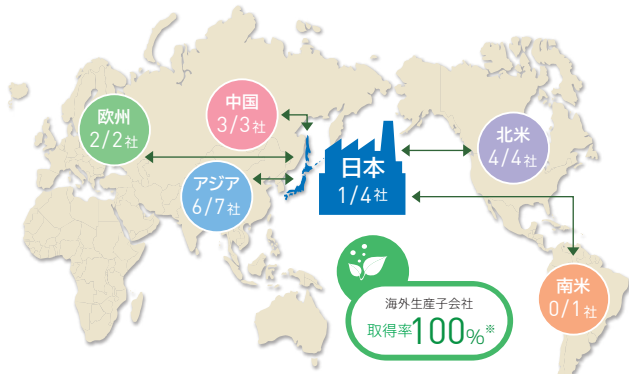


▲グローバル施設環境連絡会



ISO14001取得状況

東海理化グループでは、客観性の高いマネジメントシステムを構築し、運用することを目的にISO14001の認証を取得して環境活動を進めています。2014年1月には海外連結子会社のTRI（インドネシア）が新たに認証を取得しています。



※TRBR(南米)、TRSI(アジア)は新規立ち上げにつき取得準備中。

環境リスクの未然防止活動

東海理化グループは、社内外で発生した不具合事例を調査・分析して情報を共有し、また同様な不具合発生をしないよう定期的に工場長による類似設備の点検と対策を図ることでコンプライアンスの徹底、近隣からの「異常・苦情ゼロ」の活動に取り組んでいます。



▲工場長点検

想定される緊急事態と対応訓練

大口工場の半導体、豊田工場のめっき設備による排水異常、音羽工場の鋳造設備による火災などの環境重要設備の異常、故障から発生危険のある環境リスクを各生産部署が想定し、発生から対策処置を完了するまで早期対応ができるよう関係部署合同で訓練を実施しています。



▲排水異常を想定した訓練

法令順守活動

当社では定期的な環境測定（水質、大気、騒音、振動）および法順守評価による順法体制を構築・運用しています。2013年度は、環境測定における基準値超過0件、異常苦情0件でした。今後も、良好な法順守状況を維持できるよう努めていきます。

土壌・地下水汚染の防止

各事業所では、化学物質や油脂類の適正管理を徹底し、地下ビットの廃止や地上化などの地下浸透未然防止対策を実施しており、新たな土壌・地下水汚染の防止に取り組んでいます。また、過去に使用していたトリクロロエチレンなどの有害物質による汚染について、揚水井戸による地下水の浄化と敷地境界における定期モニタリングを継続して実施しています。

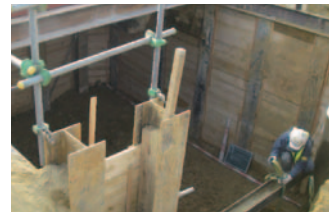
各事業所の汚染浄化状況

■豊田工場

豊田工場では、敷地内の旧めっき工程跡地について、自主的に土壌・地下水の調査を実施したところ、フッ素による土壌の汚染が発見されました。

2013年11月に行政への自主報告を行い、報告後速やかに浄化対策を進め、2014年3月には汚染土壌の掘削除去および浄化処理が完了しています。

さらに、2014年5月には新たに鉛による土壌の汚染が発見され、速やかに行政への報告を行いました。地下水汚染による敷地外への流出はなく、汚染箇所もコンクリートで舗装されているため、汚染の飛散や拡散の恐れはありません。



▲汚染土壌の掘削除去(豊田工場)

■旧西枇杷島工場

旧西枇杷島工場では、2010年の工場閉鎖後、土壌・地下水汚染について浄化を促進させるために、敷地内全域の自主的な再調査を実施してきました。

結果、トリクロロエチレンの分解生成物による土壌・地下水汚染と六価クロム、フッ素による土壌汚染が発見され、バイオによる原位置浄化の試行を行ってきました。2014年3月には行政への自主報告を行い、現在は浄化に向けて具体的な対策計画を検討中です。



▲浄化対策を試行(旧西枇杷島工場)

事業所名	対策状況
本社・本社工場	土壌・地下水の汚染はありません。
豊田工場	土壌 新たに鉛による土壌汚染を発見、モニタリング継続中。(建物解体時に掘削除去予定)
	地下水 トリクロロエチレンおよびその分解生成物による汚染があり、揚水浄化を継続中。
音羽工場	地下水 トリクロロエチレンおよびその分解生成物による汚染があり、揚水浄化を継続中。
萩工場	土壌・地下水の汚染はありません。

ビジネスパートナーとの連携

グリーン調達ガイドライン

「化学物質管理」についてはグローバルに規制が強化されつつあり、法規制導入国の増加、禁止物質の拡大、報告事項の増大に合わせ、当社では製品に含まれる成分情報の収集／登録を全製品に拡大します。また、欧州ELV指令^{※1}、欧州REACH規則^{※2}、VOC^{※3}管理などへの対応も引き続き仕入先様と一体となって進めています。また、ガイドラインの見直しを行うことにより、環境負荷低減に努めています。



- ※1 ELV指令:End of Life Vehicle(廃車指令)
 ※2 REACH規則:Registration,Evaluation,Authorization and Restriction of Chemicals(化学物質の登録・評価・認可・制限に関する規則)
 ※3 VOC:Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物)

協力会幹事会

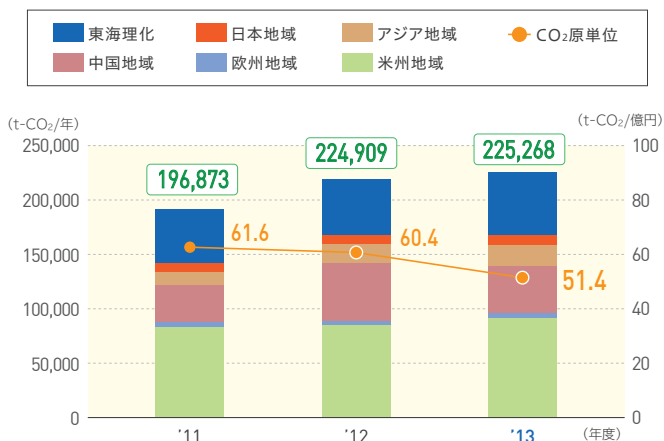
2カ月に1回のペースで協力会(全51社)の内、幹事会社(10社)を対象とした情報共有の場を設けています。

環境に関する法改正の情報や、改善事例・異常事例の展開を積極的に行っており、仕入先様にも協力していただきながら環境の取組みを推進しています。

グローバルなCO₂マネジメント

国内外の各拠点ごとに目標値を掲げて、CO₂排出量の低減活動に取り組んでいます。各拠点の実績値を毎月確認し、定期的に開催される連絡会の中で改善状況のフォローや低減事例の共有化を行い、東海理化グループ全体のCO₂低減をめざしています。

■CO₂原単位・総量(5ガスを含む)【東海理化グループ】



グローバル監査とスキルアップ教育

各拠点の管理レベルの現状を把握するため、定期的に「現地監査」を実施しています。現地監査で洗い出した課題や改善事例はグループ全体で共有し、レベルアップを図っています。

また、現地監査後にはTRJ(日本)でのレベルアップ研修会を行っており、2013年度はTRT(タイ)、TRP(フィリピン)の2拠点の現地キーマンが、省エネ技術や設備管理について学び現地での改善活動に活かしています。



各事業体の自立化

Voice



TRP(フィリピン) 今後も東海理化グループの一員として技術の向上に励んでいきたいと思っています。

TRJ教育では省エネや設備保全などメンテナンス員としての技術を向上させる上で重要なことを学びました。TRJで現地現物で学んだ改善・トラブル事例をTRPでの改善に活かしていきたいと思っています。

省エネ道場での人材育成

省エネに関する事例を手にとり体感して各職場に持ち帰り、省エネ推進できる人材を育成する道場を開設しています。2013年度は、海外事業体へのレベルアップ研修会の中でも道場研修を実施しています。また、音羽工場にも環境道場を開設して、省エネを推進できる人材の拡充を図っていきます。



▲音羽工場で開設された環境道場

▲海外研修生への道場研修

Voice



TRT(タイ) Noppadol Kunprayoteさん

省エネ、設備管理、安全について現場や道場で教育を受けました。設備点検時に、点検箇所、手順、規格値が明確に表示されていると作業者にとって理解しやすく、正しく作業できることがわかりました。TRTでも作業改善を進め、省エネや安全面に活かしていきたいと思っています。



環境教育活動

海外事業体への環境マネジメント教育

2013年6月に本格稼働を開始したTRI（インドネシア）に対して、環境マネジメント教育を実施しました。生産設備の運用基準や管理方法、内部監査の進め方、現場パトロールの実施方法などを現地にて教育しました。教育後には現地スタッフによる現地パトロールを実施し、改善を実施しています。



▲TRIでの教育



▲TRIでの現場パトロール

順法教育

2013年度も環境関連法の順法教育を開催しました。当社社員に加えて国内グループ会社も出席し、法律の規制対象となる設備や、法順守に係わる社内ルールについての理解を深めました。



▲順法教育

環境月間

2013年6月の環境月間は「東海理化を収める環境課題を学ぶ」「省エネの実践」を重点テーマとして活動しました。社長メッセージによる環境意識向上をはじめ、環境月間ニュースによる環境課題学習、省エネチェックシートの活用による職場・家庭の省エネ実践などに取り組みました。また、初の試みとして環境クロスワードを用意し、多くの社員とその家族の方に参加してもらいました。



▲環境クロスワード

省エネ活動啓発

省エネ活動に貢献した部署やグループの表彰を実施しています。2013年度金賞は大口組立生産部・SW生技部・設備工機部「新OS自組機の省エネ化によるエア消費量の削減」。



▲表彰された大口組立生産部・SW生技部・設備工機部の皆さん

環境情報の開示

地域懇談会

各工場にて、隣接する各地区の区長、自治体関係者の方々をお迎えして地域懇談会を開催しました。工場見学や当社製品の紹介、環境改善事例などをご見学いただいた後、食堂にて昼食を取りながら意見交換を行いました。



▲地域懇談会後の「昼食会」

Voice



豊田市 樹木自治区 区長
中野 征生様

めっき設備を保有されていることや新たな緑地整備を計画されているなど地域住民として東海理化様には注目しています。30年先を見据え環境整備に力を注がれるとのことですので地域としてもできるだけ協力していきたいと思っております。今後の活動に期待しています。

環境情報の公開

当社は、2001年より「環境報告書」（2006年からは「環境・社会報告書」）を発行しています。報告書を通じ、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーション充実に努めるとともに、WEBでの情報開示にも努めています。

✓ WEBサイトはコチラから
<http://www.tokai-rika.co.jp/environment/index.html>

PCB（ポリ塩化ビフェニル）の保管状況

PCB特別措置法に基づき変圧器やコンデンサなどのPCB含有廃棄物および使用機器を適正に保管しています。2013年度は全社で低濃度PCB廃油※の処理を実施しました。今後も流出や土壌汚染の恐れがない適切な保管庫での管理と適正処理を進めていきます。

■PCB廃棄物保管状況

保管工場	変圧器(台)	コンデンサ(台)	安定器(個)	開閉器(台)
本社工場	5	1	0	1
豊田工場	4	0	0	0
音羽工場	6	3	209	1

※変圧器、コンデンサ、開閉器内の低濃度PCBは2013年6月に処理を完了しています。